2023年度　審査研究課題等一覧表

番号	研究課題等	職名	申請者氏名	判定	開催回数	所属	申請日	審査日	承認日	備考	概要
2023-1	RET融合遺伝子陽性肺がんに対してセルペルカチニブを投与した患者における臨床的特徴の検討	呼吸器アレルギー科医師	永福　建	承認	1	医局	2023/4/5	4/26	4/26		RET融合遺伝子の頻度は非小細胞肺癌の1から２％程度で希少であり、まとまった症例での報告は少ない。また日臨床においてセルペルカチニブは高い抗腫瘍効果が出来る一方で、様々な有害事象も報告されている。本研究を行うことで実臨床におけるRET陽性肺癌患者の特徴やセルペルカチニブ投与における治療効果、有害事象に対する対応などを取りまとめ報告することで今後の臨床の参考にすることが期待される。 研究実施期間：承認後2023年12月31日まで　目標症例数：8例
2023-2	MAC症治療におけるリファンピシンを除いた２剤治療の隔日投与について	院長	白井　正浩	承認	1	医局	2023/4/12	4/26	4/26		肺MAC症と診断され、治療後再排菌した症例または長期継続治療症例の治療にAZM（CAM）＋EBの2剤の週3回治療を行い、排菌状況と画像所見、臨床症状の変化の有無を検討する。 治療後再排菌した症例または長期継続治療症例の治療にAZM（CAM)＋EBの2剤の週3回治療が行われた症例6例を対象とする。 研究予定期間：承認後2024年3月まで
2023-3	自閉症スペクトラム障害(ASD）、注意欠陥・多動障害（ADHD）のオンライン授業と対面授業の取り組み姿勢の比較検証	看護師長	藏ヶ﨑　誠	承認	1	看護部	2023/5/8	5/24	5/24		自閉症スペクトラム障害（以下ASD)と注意欠陥・多動障害（以下ADHD)への入院中におけるオンライン学習の効果について、対面による授業は退院後の通学に重要であるが、登校できない場合の学習支援として、オンライン授業はASD、ADHDの患児らの取り組み姿勢に効果的であるか検証する。
2023-4	多剤耐性結核患者に対するリネゾリドとクロファジミンの有害事象の実態調査	副院長	中村　祐太郎	承認	1	副院長	2023/5/17	5/24	5/24		現状の日本の多剤耐性結核治療は感受性のある薬剤を⑤剤使用し治療期間は菌陰性化後18ヶ月投与となっている。今後リネゾリド、クロファジミンを使用した短期間治療レジメンがスタンダードになることが予想され、日本での導入も考慮される。しかしながら、日本での多剤耐性結核患者に対するリネゾリドとクロファジミンの有害事象についての実態調査はされておらず、多剤耐性結核に対して上記薬剤を使用した過去の症例を対象として両薬剤の使用状況と有害事象の実態を調査することを目的とする。
2023-5	自己実現への促しにより行動変容がみられた高次脳機能障害患者の一例	作業療法士	大井　七海	承認	1	リハビリテーション科	2023/6/19	6/28	6/28		10年の長期入院に渡りADLに介助を要した高次脳機能障害患者に対し、患者の自己実現を促す介入を行った結果、行動変容がみられADLが改善し、自宅退院可能となった。 ＜方法と結果＞作業療法では症例の希望していた自宅退院と作業所への通所に向け、トイレ排泄とスケジュール管理の自立を短期目標とした。訓練時には患者自身が退院後の生活イメージをもち課題を認識させることを目的に、対話の中で症例自身の思いを聞きつつ、目標と課題を明確化し、口頭での確認を繰り返し行った。また、代償手段を活用し、トイレ手段やスケジュール管理の練習を行った。約4ヶ月間継続した結果、トイレ排泄や病棟内の日課に沿った生活が可能となり、自宅退院が実現した。
2023-6	多分野合議による間質性肺炎診断に対する多施設共同前向き観察研究	第一診療部長	金井　美穂	承認	1	医局	2023/6/19	6/28	6/28		「特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出-人工知能（AI)診断システムと新規バイオマーカーの開発」 　特発性間質性肺炎は指定難病で有り、９つに分類され、それぞれ治療方針や予後が異なる。治療方針を適正に決定するためには適切な診断が必要であるが、診断は容易ではなく、診断に有用なバイオマーカーも確立していない。MDD診断を日常臨床で可能とするためクラウドコンピューティングを利用し、遠隔MDD診断システムを開発し、特発性間質性肺炎の前向きレジストリ構成を目的とする。 本件はすでに承認を受けているが、今回、分担医師追加申請とアカウント権限を一時的に代行入力者権限に切り替えを要したため許可申請を行う。
2023-7	AIを活用した放射線科におけるタスクシフトの可能性	診療放射線技師	柴田　大貴	却下	1	放射線科	2023/6/21	6/28	－	計画書の内容が不足。ＡＩについての説明も不足している。アンケートについても対象者に意図を説明していないため、再申請すること。	被爆相談員のタスクシフトと効率化のためのAIの活用を評価する。相談者がPCを通じてAIに直接質問を投げかけることで、AIは適切な情報と支援を提供する。相談者がAIから受けた助言や情報に対する信頼感を測定するためのアンケートを実施する
2023-8	分類不能型間質性肺疾患の疾患進行や予後に関する他施設共同研究	副院長	中村　祐太郎	承認	1	医局	2023/7/4	7/26	7/26		特発性間質性肺炎症例の臨床経過・治療反応性・予後に関する因子の探索を目的とした多施設共同コホート研究「特発性間質性肺炎の診断・治療及び予後における多面的研究」のMDD診断されたIIPｓの集積データを用いて、分類不能型ILDにおける疾患進行や予後に関する因子を明らかにする。 研究期間：承認日～2,028年3月31日　予定症例数224例 共同研究：責任者のある施設においては倫理委員会の承認をえている
2023-9	アムヴトラ皮下注２５ｍｇシリンジ特定使用成績調査	脳神経内科医師	福徳　晃子	承認	1	医局	2023/7/10	7/26	7/26		アムヴトラ皮下注２５ｍｇシリンジ製剤販売後の使用実態下において本剤を投与されたすべての患者を対象に長期間の本剤使用における安全性及び有効性を検討する。
2023-10	関節リウマチに伴う気管支拡張症の全国調査研究	呼吸器アレルギー科医長	大場　久乃	承認	1	医局	2023/7/5	7/26	7/26		関節リウマチに気管支拡張症を合併した症例（ＲＡ-ＢＥ）について、気道病変や感染エピソードと背景因子・関節病変・治療内容などとの関係より、有効性を全国調査にて明らかにする。後ろ向き研究で研究期間は承認後２０２５年３月３１日まで　今回、研究計画書に改訂があるため、申請した。改訂は資料の赤字の部分となる。
2023-11	重症心身障害児（者）病棟で感じる職務上の困難と必要としている支援　～新人レベルの看護師に焦点をあてて～	看護師	小林　いつか	承認	1	看護部	2023/7/18	7/26	7/26		重症心身障害児（者）病棟に配属された新人看護師は看護師として業務する上でどのような困難を抱いているかについて、新人レベル看護師にアンケートを実施する。 看護現場における職務上の困難さを明らかにすることで、どのような支援を必要としているかを検討する。対象人数は１５名程度。
2023-12	特発性慢性線維化性間質性肺炎における進行性線維化性肺疾患の頻度、急性憎悪率、肺癌合併率、予後についての臨床的検討	副院長	中村　祐太郎	承認	1	医局	2023/8/7	8/23	8/23		浜医大呼吸器内科及び関連施設において平成26年9月から令和4年12月までに行われた「特発性間質性肺炎の診断・治療及び予後における多面的検討（以下先行研究）に登録された症例データベースがある。それを用いて、IPF群とnon-IPF群におけるPF-ILDの頻度、急性憎悪率、肺癌合併率、抗線維化薬治療の有無による生存期間を比較検討する。Nom-IPFにはCOP・DIP・RB-ILDなどのほとんどが予後良好な疾患群が存在することから、これらを除外し、NSIP及び分類不能型間質性肺炎を対象とし、IPF群と比較検討を行う。
2023-13	児童精神科看護師の語り合いによる精神健康度の変化	看護師	小野　和美	承認	1	看護部	2023/8/7	8/23	8/23		当院の児童精神科病棟において、暴言・暴力は疾患に起因することや子どもゆえのこころの未熟さから看護師は心理的な負担を感じながらも「仕方ない」と感情を抑制して対応していると推測する。感情を抑制する感情労働はストレスを伴い、持続することで心身の疲弊の慢性化やバーンアウトの懸念がある。そこで暴言・暴力を受ける感情や体験を語り合うことで精神健康度に変化を及ぼすかを明らかにする。 児童精神科病棟スタッフ22名へGHQ精神健康調査の実施について書面で同意を得て実施するが、倫理上問題ないか審議願いたい。

2023年度　審査研究課題等一覧表

番号	研　究　課　題　等	職　名	申請者氏名	判定	開催回数	所属	申請日	審査日	承認日	備考	概要
2023-14	過敏性肺炎の全国疫学調査（二次調査）	呼吸器アレルギー科医長	大場　久乃	承認	1	医局	2023/8/15	8/23	8/23		他施設において過敏性肺炎の診断における疫学調査を行い、2022年に発刊された過敏性肺炎診療指針の検証、改定に向けた調査、客観的な診断基準・重症度分類の策定、難病の指定に向けた情報整理、有病率・罹患者数の推定、小児から成人への移行期医療体制の構築を行う。 共同研究機関における承認状況については2023年5月に承認をえている。研究期間は承認日より2027年3月31日迄
2023-15	潜在性結核感染症治療におけるイソニアジド・リファンピシン単剤及びイソニアジド・リファンピシン併用レジメンの安全性と有効	呼吸器アレルギー科医長	大場　久乃	承認	1	医局	2023/8/18	8/23	8/23		調査対象期間の延長：2023年6月30日⇒2024年6月30日　情報数不足なため
2023-16	神経難病患者の看護実践において看護師が抱く困難さとその対応	看護師	高橋　千栄	承認	1	看護部	2023/8/18	8/23	8/23		難病患者に携わる看護師がどのような困難を感じているのか質問用紙を作成し、看護師が抱く困難な内容を明らかにしたいと考え、対応策について検討し、神経難病患者への看護の向上を目指す。 対象者：病棟看護師31名　調査期間：令和5年8月～令和5年10月
2023-17	東海北陸管内における副看護部長を対象とした研修会の報告	看護部長	松下　真紀	承認	1	看護部	2023/8/23	8/23	8/23		りいっそうの労務管理や危機管理能力が求められてきた副看護部長に対して、任務のあり方を見つめ直し、意識や行動変容を支援する機会として、研修会企画、開催し、研修後のアンケートにより評価する。 対象者：2022年度副看護部長21名　調査期間：2023年9月30日まで 研究の科学的合理性としては、今後の看護部長が行う協議会活動や副看護部長の育成方法を考案する一助になると考えた。
2023-18	器質化肺炎合併非特異性間質性肺炎の臨床像に関する多機関共同研究	副院長	中村　祐太郎	承認	1	医局	2023/8/28	9/27	9/27		すでに承認・実施された多機関共同コホート研究「特発性間質性肺炎の診断・治療及び予後における多面的研究」においてMDD診断されたＩＩＰｓの集積データを用いて、”ＮＳＩＰ　with　OP　overlap パターン”に注目し、疾患進行や予後、臨床データの経年的な推移に関する因子について明らかにすることで新たな疾患概念としての臨床応用が期待できる。
2023-19	児童・思春期精神科病棟におけるゲーム依存の入院治療に及ぼす影響について	子どものこころのケアセンター長	山村　淳一	承認	1	医局	2023/9/20	9/27	9/27		すでに承認された件について、目標症例数の変更とデータ収集期間の延長を申請する。 ・データ収集期間の延長：2023年12月31日⇒2024年4月30日 ・目標症例数：100例⇒200例 ・臨床情報の追加：患者の人種について
2023-20	特発性間質性肺炎における膠原病的背景が疾患進行・治療反応性及び予後に与える影響に関する臨床病理学的研究：多施設共同、後ろ向き観察研究	副院長	中村　祐太郎	承認	1	医局	2023/9/20	9/27	9/27		本研究はすでに承認実施された多施設共同コホート研究「特発性間質性肺炎の診断・治療及び予後における多面的検討における集積データを2次利用し、特発性間質性肺炎症例の臨床情報、血清抗体やサイトカイン、CT画像所見、肺病理組織所見が疾患進行や治療反応性及び予後に関わるかどうかを検討する。 浜松医科大学において承認済み。 目標症例数：224例 研究期間：2028年3月まで
2023-21	児童精神科フォローアップ外来において病棟看護師が介入することによる退院患児のストレス反応の変化	看護師	佐々木　優人	承認	1	看護部	2023/9/21	9/27	9/27		児童精神科におけるフォローアップ外来に関する先行研究はない。入院という場においてすでに関係性が構築できている看護師がフォローアップ外来で介入することは、患児とその家族にとって、効果的な介入ができるのではないかと考える。フォローアップ外来を受診する患児のストレス値の変化を計測することで看護師の介入の効果を明らかにしたい。
2023-22	肺MAC症に対するクラリスロマイシン（アジスロマイシン）とエタンブトールの２剤間欠投与治療についての検討	院長	白井　正浩	承認	1	医局	2023/10/4	10/25	10/25		肺MAC症と診断された未治療症例、治療後再排菌した症例、または長期継続治療症例にクラリスロマイシン/アジスロマイシン+エタンブトールの２剤の週３回治療を行い、治療効果及び副作用の有無を検討する。 研究実施期間：承認後～2026年３月 目標症例数：50例
2023-23	がん治療に関連した二次性肺障害のリスク評価のための臨床・画像所見の解析：前向き観察研究（ACROSS試験）	呼吸器アレルギー科医師	伊藤　靖弘	承認	1	医局	2023/10/6	10/25	10/25		手術、放射線、薬物療法などのすべてのがん治療は、放射線肺臓炎、薬剤性肺障害、間質性肺炎の急性憎悪などの肺障害（二次性肺障害）を起こすリスクがあり、併存症として間質性肺炎などの肺の線維化病態を有している患者ではこれらのリスクが高まることが知られている。しかし、どの程度の間質性肺炎でどの程度のリスクのがん治療を行うことが出来るかの明確なコンセンサスはない。本研究ではがん治療を予定、または行っており、かつ胸部CTで線維化所見が疑われる患者に対する前向き観察研究を行い、画像所見及び臨床所見を解析し、がん治療に伴う二次性肺障害のリスクを明らかにすることを目的とする。 研究期間：承認後～2028年9月 目標症例数：３００例 ・浜松医科大学において２０２３年９月２７日付で一括審査で承認済
2023-24	Mycobacterium avium　及び Mycobacterium intracellulare における臨床像及び予後因子の比較検討	副院長	中村　祐太郎	承認	1	医局	2023/10/12	10/25	10/25		Mycobacterium aviumとM.intracellulareは患者の臨床像及び治療法等の性質が類似しているため、臨床の現場及び基礎研究上も肺MAC症と呼ばれ一括して検討されることが多かったが、地域によって感染頻度が異なることが報告されており、最近では臨床的にも異なる可能性を示唆する報告が散見される。両菌腫による肺感染症の臨床像等の相違を明らかにすることを目的に比較検討を中心に解析を行う。当院にて Mycobacterium avium、M.intracellulareによる肺感染症の初回治療導入を行った症例を対象に各菌種による臨床像、治療反応性、予後等につき検討する。 研究実施期間：承認後～2026年3月 目標症例数：146例
2023-25	当院における高齢者結核の現状	副院長	中村　祐太郎	承認	1	医局	2023/10/17	10/25	10/25		当院に於いて、高齢者肺結核においてコロナの影響を明らかにするため、高齢者肺結核入院治療を行った症例を対象に、臨床像、治療反応性、予後等につき、コロナ前後の比較を行い検討する。 研究実施期間：承認後～2026年3月 目標症例数：209例
2023-26	終末期ケア・緩和ケアの実態と看護師の意識に関する調査	看護師	豊田　佳奈	承認	1	看護部	2023/11/22	11/22	11/22		当病棟（3病棟）の緩和ケアの実態と看護師の意識の調査を行う。当病棟看護師は緩和ケアに対し様々な思いを抱えながら看護をしていることが分かったため、看護師の年齢層や経験年数、看護観や価値観も踏まえ、看護師自身が緩和ケアをどのようにとらえているか、看護師自身が実践上どのような困難感を抱えているかの実態を明確にし、病棟の特徴である長期療養の終末期患者がその人らしく生きることを支える看護、よりより最期を迎えるための緩和ケアを考える機会にしていく。 調査方法：質問紙法による量的研究 対象者：病棟看護師36名 調査期間：令和5年11月～令和5年12月
2023-27	サチュロ錠100ｍｇ特定使用成績調査（プロトコル番号：ＳＩＲ１Ｌ）	内科医長	藤田　薫	承認	1	医局	2023/12/15	12/27	12/27		多剤耐性肺結核患者を対象にサチュロ錠100ｍｇの長期使用実態下における安全性及び有効性を検討することを目的とする。症例数：登録機関中に本剤を投与したすべての症例。調査期間：2027年1月末まで

2023年度　審査研究課題等一覧表

番号	研究課題等	職名	申請者氏名	判定	開催回数	所属	申請日	審査日	承認日	備考	概要
2023-28	クライオ生検にかかる適応外使用について	第一診療部長	金井　美穂	承認	1	医局	2023/12/25	12/27	12/27		クライオ生検による合併症の出血対策として、バルーン止血法がクライオ生検指針（日本呼吸器内視鏡学会クライオ生検指針作成ワーキンググループ）で提案されている。本邦ではクライオ生検に用いることが出来る形状で気管支鏡の保険適応となる止血バルーンは存在せず、フォガティーカテーテルが他施設では使用されている。当院でもクライオ生検時のバルーン止血法に対してフォガティーカテーテルを適応外使用する必要がある。
2023-29	間質性肺疾患の急性憎悪に対する治験と臨床経過の調査	第一診療部長	金井　美穂	承認	1	医局	2024/1/17	1/24	1/24		間質性肺疾患患者における急性憎悪の初回治療の治療実態・臨床経過を前向きに多施設共同で調査し、調査結果を用いて、ＩＬＤの疾患毎の予後や予後不良因子を明らかにする。 本研究は2019年12月当院にて承認をえているものであるが、2020年以降コロナ禍の影響で登録数が共同研究施設全体において大幅に減少しており、間質性肺疾患の急性憎悪の発生率が想定よりも低いため、研究デザインを簡素化し、症例登録を促すように変更する。主な変更点は目標症例数の減少、研究期間の延長、症例登録期間の延長等である。
2023-30	レケンビ特定使用成績調査 ー早期アルツハイマー病患者に対するARIAに関する調査（全例調査）ー	第二診療部長	西山　治子	承認	1	医局	2024/2/16	2/28	2/28		上市前に行われた臨床試験結果において、本剤によりアミロイド関連画像異常（以下ＡＲＩＡ）やInfusion reactionが起こることが明らかにされている。本剤の製造販売の承認条件として、投与患者全例を対象に、背景情報を把握するとともに本剤使用における安全性及び有効性の調査が課せられた。調査内容は下記の通り。 ・日常診療下のARIAの発現割合の把握 ・ARIAを発現した症例におけるARIA発現時の本剤の投与状況を把握する ・ARIAの発現に影響を与える患者背景因子について探索的に検討する ・日常診療下のInfusion reactionの発現割合を把握する ・長期的な認知機能や日常生活動作の変化について観察する 調査期間：販売開始日～2028年3月31日まで
2023-31	児童・思春期精神医療における看護師の移行期医療支援の実態と認識	看護師	仲田　貴絵	承認	1	看護部	2024/3/5	3/27	3/27		目的：児童思春期精神医療における看護師の移行期医療支援の実態と認識を明らかにし、成人期精神医療への移行で求められる支援に対する示唆を得る。 対象者：全国児童青年精神医療施設協議会に加盟している施設で児童・思春期精神科の病棟または外来に勤務する看護師 対象者数：５０９名 研究方法の概要：全国児童青年精神医療施設協議会に加盟している37施設の看護部長に書面にて研究説明と協力を依頼した。同意の得られた看護部長に施設の児童・思春期精神科に関係する病棟数、外来数、師長数、看護師数を郵送にて回答を得た。研究協力の得られた施設の看護部長を介して、児童・思春期精神科に関係する病棟と外来に勤務している看護師に研究説明文書とグーグルフォームのURL、QRコードを配布してもらった。同意を得られた看護師を対象に児童・思春期精神科における移行期医療支援の認識に対してのアンケート調査を行った。回収に関してはＷＥＢ上で回答を得た。
2023-32	当院より検出された迅速発育菌 Mycobacterium abscessusの検討	院長	白井　正浩	承認	1	院長	2024/3/19	3/27	3/27		非結核性抗酸菌症は年々増加傾向にあり、わが国では Mycobracterium avium と M.intracellulare の感染による肺MAC症、肺M.kansasii症や肺M.abscessus subspecies abscessus、M.abscessus subspecies massiliense、M.abscessus subspecies massiliense、M.abscessus subspecies bolletiiの亜種が存在し、治療への反応性が異なる。2020年のATSガイドラインによるとマクロライド耐性を誘導するerm41遺伝子、rrl遺伝子の突然変異の有無等、マクロライド耐性に関与するため、マクロライド耐性の有無を確認し、マクロライド感受性症例ではマクロライド系薬剤を含むレジメンを強く推奨している。しかし遺伝子検査はわが国では保険適応外であり、専門研究機関で行われる。このため保険適応のCLSI M24 3nded.に従った薬剤感受性検査測定が必要であり、マクロライド投与が可能か判定する。　当院では最近、迅速発育菌が目立ち始め、診断時の菌株を冷凍保存している。研究目的は、患者へ治療選択の一助と考え、臨床分離株菌を用いて薬剤感受性と研究用キットを用いた亜種、臨床を調査し検討する。 本研究はすでに2021年4月に承認を受けているが症例を追加したいため、期間の延長をしたい。
2023-33	多分野合議による間質性肺炎診断に対する多施設共同前向き観察研究	第一診療部長	金井　美穂	保留	1	医局	2024/3/21	3/27		主催の名古屋大学で判断してもらう。	「特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出-人工知能（AI）診断システムと新規バイオマーカーの開発」 特発性間質性肺炎は指定難病で有り、９つに分類され、それぞれ治療方針や予後が異なる。治療方針を適正に決定するためには適切な診断が必要であるが、診断は容易ではなく、診断に有用なバイオマーカーも確立していない。MDD診断を日常臨床で可能とするためクラウドコンピューティングを利用し、遠隔MDD診断システムを開発し、特発性間質性肺炎の前向きレジストリ構成を目的とする。 症例1299-0001の取り扱いについて審査をお願いしたい。 外来で同意取得した際に、取得医師が分担担当医師未申請であった。一時「代行入力者」へ切り替えし、名古屋大学倫理審査で研究分担医師審議をうけ承認を受けている。 ・再同意取得の要否について：再同意が必要かどうか ・研究継続の可否について ・逸脱発覚後に12ヵ月後のフォローアップ画像が入力済みとなっている件の了承の可否
2023-34	児童精神科病棟患児の骨密度と入院中の食事摂取状況との関連	栄養管理室長	齋藤　秀和	承認	1	栄養管理室	2024/3/22	3/27	3/27		骨密度は２０歳くらいまでの若年期に最大骨量を得て、それ以降減少していく。そのため骨粗鬆症の予防対策として小児期からの望ましい食習慣により十分に最大骨量を高める、一次予防の必要性がある。しかし自閉スペクトラム症の患児や知的発達障害者においては、骨密度が低いという報告がある。その要因としては病気の特性として食事摂取に偏りが有り、骨密度の増加に必要な栄養が摂取できていない可能性がある。患児の将来的な骨粗鬆症予防のためには適切な食習慣の獲得が必要である。そこで当院児童精神科病棟入院患児の骨密度と食事摂取状況について関係性を明らかにし、栄養介入の必要性と方法について検討する。
2023-35	間質性肺疾患に対する箱づくり法を用いた試みー多職種による支援プログラムの中で	作業療法士	鈴木　俊成	承認	1	リハビリテーション科	2024/3/21	3/27	3/27		間質性肺疾患（ＩＬＤ）患者への多職種による支援プログラムの中で箱づくり法を用いた評価を実施し、通常では見過ごされやすい作業遂行の特徴を把握できる箱づくり法がどのように有効か検討をする。 当院にて間質性肺炎の診断のもと、入院にて多職種による指導、支援を受けた患者３症例を対象とする。これらの患者を対象に箱づくり法を用いた評価を行い、その後の作業療法に与えた影響を整理し、患者への効果を後ろ向きに検討する。 多職種による通常の患者支援プログラムを継続ながら、作業療法士は箱づくり法を用いて作業遂行の特徴を把握する。箱づくり法の実施結果が影響を与えたプログラムと患者あるいは家族指導は何か調査する。 ３症例それぞれにおいて、箱づくり法によって明らかになった作業遂行の特徴の把握が、作業療法士による治療、患者、家族指導にどのように影響を与えたかを整理し検討をする。
2023-36	神経難病患者がその人らしい療養生活を送るために必要な看護	看護師	伊藤　隆太	承認	1	4病棟	2024/3/22	3/27	3/27		病棟における神経難病患者は在宅療養から入院療養へと切り替わった患者が多く、そのまま人生の終演を病棟で迎えるケースが多い。病棟での生活は患者の希望した気分転換活動や他者との意思疎通を行う機会も少なく、患者に対して日々のケアを行い最後を看取るなかでその人らしい生活を送れているのか疑問をもった。難病は有効的な治療方法が確立されておらず、症状や病状の進行状況に多くの健康や生活への問題をきたしQOLが低下しやすい。そのため治癒を目指すことができない難病患者においてはQOLの維持や向上が重要ではないかと考えられる。患者がその人らしく生活するために必要な視点をSEIQoL-DWを使用することでより患者のその人らしさを反映した看護ができるのではないかと考え立案した。